

都留市パブリック・コメント制度 意見募集結果

案件名： 「平成25年度市政運営方針・重点施策（案）について」

意見提出期間： 平成24年10月1日～平成24年10月22日

結果公表日： 平成24年10月31日

意見等の提出件数： 提出者 2名、提出件数 2件

意見等の受付方法： メール 2名

項目	意見等の内容	市の考え方
<p>分野VI 「人権を尊重し、互いに支え合う福祉のまちづくり」について</p>	<p>生活保護受給者の中には充分に働ける方もいるようです。都留市の負担も増え続けるし、納税者は不満の気持ちで一杯です。</p> <p>市役所の職員さんも就業を促してくれていると思いますが、長引く不況で思うようにはならないのかもしれないかもしれません。</p> <p>同じく高齢者も増え続け・・・って事は介護施設は人手不足かもしれないですね。</p> <p>介護施設の職員さんは「給料はあまり上がらず 仕事は増えて・・・」とっていました。</p> <p>もし、無償で生活保護受給者の方に 介護施設のお手伝いをお願い出来れば 施設は人件費を増やさず、職員さんの負担は軽減され、受給者の方は仕事が出来ます(無償ですが・・・)。</p> <p>高齢化で使わなくなった耕地、水田も増えてるのではないのでしょうか。</p> <p>これも無償で受給者の方に野菜や米、花づくりをしていただき、量産できれば給食センター、病院、介護施設、スーパーなどで地産地消。</p> <p>もしかしたら都留市の経費節約にも繋がるかもしれませんし、受給者の方の健康や精神面に良い影響を与えるかもしれませんし、納税者の負担も軽くなるかもしれませんよね。</p> <p>市の経費節約のために協力してく</p>	<p>高齢者と貧困層の増加により、全国的に生活保護受給者は増加の傾向にあり、本市も例外ではなく、平成23年度の相談件数は70ケースでそのうち保護開始は32世帯(高齢者世帯13、傷病世帯7、障害者世帯4、母子世帯2、失業等世帯6)となっています。一方廃止は17ケース(うち就労による廃止は4ケース)でした。本市の生活保護世帯は平成24年3月の時点で132世帯ですが、保護率は5.4%(千分率)であり、山梨県全体の6.8%、全国の16.4%に比べ低い状況にあります。</p> <p>生活保護世帯へのケースワークにおいて、就労が可能な世帯には、就労支援を行い、就労など世帯が得ている収入は適正に収入認定をして生活扶助の支給額に反映させ、制度の適正な実施に努めているところですが、いただいたご意見のように社会からの疎外感をなくし、社会復帰への足がかりとなるような社会貢献活動の場などは、生活保護受給者にとって地域社会への参加や生き方の模索を促すことが期待できるものと考えます。</p> <p>いただいた貴重なご意見を、長期総合計画(後期基本計画)に掲げている、低所得者世帯の自立支援事業の参考とさせていただき、今後とも健康で文化的な最低限度の生活を保障する生活保護制度の適正実施に努めるとともに、生活保護世帯の地域社</p>

	<p>れる会社もあるのではないですかね。</p> <p>そして都留市内の収穫物でうまく利益が出せる仕組みが出来れば、難しい企業の誘致、円高、社会不況の影響をあまり受けないですむかな・・・とも思うのですね。</p>	<p>会への参加を促すなど生活意欲を助長し、自立支援に取り組みます。</p>
<p>分野Ⅲ 「人と自然が共生する環境のまちづくり」について 政策Ⅰ 「快適な生活環境の創出」及び政策Ⅱ「自然エネルギーの導入促進」について</p>	<p>【案件】分野Ⅲ「人と自然が共生する環境のまちづくり」 政策Ⅰ「快適な生活環境の創出」 政策Ⅱ「自然エネルギーの導入促進」②自然エネルギーの普及啓発 上記の案件を重点施策として進めて頂きたいと思っております。</p> <p>なお、10月20(土)に都留市エコハウスで行われた、第28回つながるエコカフェにおいて、参加された方々から、都留の新しいエネルギーのあり方として、以下のアイデアを頂きました。参考にして頂ければ幸いです。</p> <p>[小水力] ・都留市内における小水力の更なる普及、拡大←もっと小さい規模でたくさん ・「小水力発電キット」を売り出し、小水力を身近に感じてもらうとともに、各家庭で電力を少しでも賄えるようにする</p> <p>[太陽光] ・太陽光発電の導入促進に賛成 ・大規模な太陽光発電ではなく、「藤野電力」のように「都留電力」と称し、家で自家発電できるレベルの「太陽光発電キット」を「取り付け方ワークショップ」とともに売り出す。※藤野電力が実践している[規範づくり/普及啓発] ・エネルギーを大切に、長く使うことが素晴らしい、という規範・価値観を作る ・「つるエネガール」というエコガールの称号をつくり、普及させる</p>	<p>平成25年度市政運営方針・重点施策(案)において、分野Ⅲ「人と自然が共生するまちづくり」政策Ⅰ「快適な生活環境の創出」及び政策Ⅱ「自然エネルギーの導入の促進」を重点施策に掲げました。</p> <p>その中で、貴重なご意見に係るものとして、政策Ⅰでは、人の営みを通じて形成された二次的な自然環境である「里地・里山・里水」の持続的な活用と保全を図る条例を制定し、市民、事業者、行政が連携して取り組む仕組みを整備します。この中には、本市の84%を占める森林資源の持続可能な活用と保全を図る取組としてバイオマスタウン構想の実現に繋がる取組も含まれています。政策Ⅱでは、「小水力発電のまち」のトップランナーとして、小水力市民発電所を中心とした「環境学習フィールド」を活用した自然エネルギーの普及・啓発や、未来型農業の普及、環境を核とした観光産業の振興を図る「アクアバレーつる」構想を推進し、全国に発信していきます。また、「里地・里山・里水」の保全と活用を踏まえ、「都留市バイオマスタウン構想」の実現に向けて木質バイオマス等の活用策などの検討を進めます。また、包括連携協定に基づく横浜国立大学との連携により今年度作成する小水力を核とした持続可能な自然エネルギーの地産地消を目指すスマートコミュニティ構想の実現に向けた取組を推進し、全国に発信していきます。</p>

<p>※上記規範をつくるための仕掛け</p> <p>※なぜなら、日本人は流行やファッションに敏感で、それをすると「可愛い」「お洒落」「かっこいい」と成ることが解ったら普及は速い。それを逆手にとり、エネルギーに関心を持つ仕組みをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都留停電の日」をつくり、焚き火とローソクで一晩過ごす。電気の大切さを改めて実感する。 ・都留市最大電力量を決める都留市で年間に使える最大電力量を決め、それ以上使ったら停電するようにする <p>毎月「現在の電力使用状況」を掲示し、各地域、各業者同士で、残りの電力の使用の加減を融通し合ってもらおう。</p> <p>[木質バイオマス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都留市の公共施設、大規模施設は全て薪 or ペレットストーブ ・芭蕉月待ちの湯のボイラーを薪に <p>[その他自家発電]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽系フェス×自転車発電 <p>※自家発電の普及のため、野外フェスを都留で開催。その際に必要とされる電力は自転車を漕ぐことで生まれる電気で賄う。会場の周りに自転車を多数配置し、ひたすら漕ぐことで、ライブが聴ける</p> <p>以上です。</p>	<p>産・官・学・民が連携して、情報を共有し、同じ目標を掲げてそれぞれの立場で様々な可能性に取り組むことが必要と考えます。</p> <p>貴重なご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
---	---